

写真1. 30分経過後のホイップクリームの状態

ホイップクリーム体積の経時的変化の比較：

亜酸化窒素含有ホイップクリームと二酸化炭素含有ホイップクリーム体積の変化を比較するため、クリーム面の高さを測定した。両者ともに吐出後の経過時間と比例してクリーム面が低下し、30分後の亜酸化窒素含有ホイップクリームは60 mmから53 mm、二酸化炭素含有ホイップクリームは60 mmから42 mmと低下し、明らかに亜酸化窒素含有ホイップクリームの方が高い保形性を示した。窒素含有ホイップクリームのクリーム面は低下しなかったが、これは前述のように十分ホイップされていなかったことによる（表2、図2）。なお、通常のホイップクリームのクリーム面に低下はみられなかった（図2）。

表2 クリーム面の高さの経時変化

経過時間(分)	クリーム面高さ (mm)						
	0	5	10	15	20	25	30
充填ガス							
亜酸化窒素	60	60	58	56	55	54	53
二酸化炭素	60	60	58	54	50	48	42

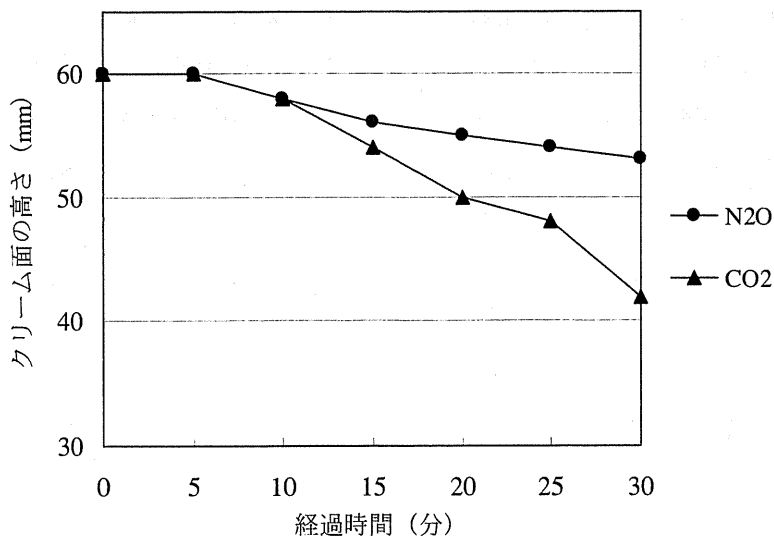


図2. ホイップクリームの保形性の経時変化